

アイテム

2012
冬
Vol.17

公益財団法人
伊丹市文化振興財団
TAKE FREE

特集

伊丹にキース・ヘリングが

やってくる



ニノキ
アガシ

大好評の連載陣

【クラフト作家の職場を訪ねて】 夢膨らむ手織の館

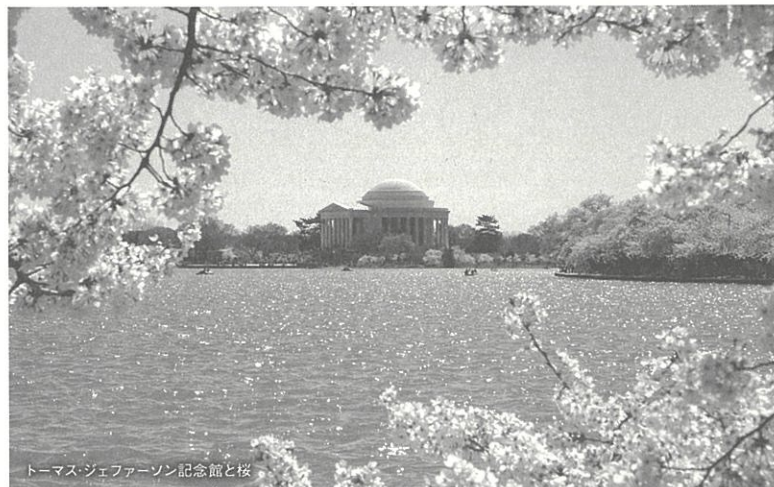
【伊丹遺産】 ワシントン、観光名所の桜は伊丹産

【本は世界の旅先案内人】

伊丹遺産 THE ITAMI HERITAGE

第12回

日米友好の桜、寄贈100周年



トーマス・ジェファーソン記念館と桜

ワシントン、 観光名所の桜は伊丹産

米国の首都ワシントンで春を告げる行事「桜まつり」。美しい桜並木で知られる会場ポトマック公園の桜は、伊丹産の台木から苗木を作り、1912年、日本から贈られたものだ。

作家シンドモア女史の熱望により実現した桜の寄贈だが、最初に届いた二千本からは害虫や病気が発見され焼却処分。再び桜を贈るため、害虫に強い苗木を作る計画が浮上。当時は全国的に珍しかった害虫駆除設備の青酸ガス燻蒸室があり、高い園芸技術をもつ伊丹の東野村に白羽の矢が立った。東京・荒川堤の桜並木から穂木を取り、伊丹の桜を台木として接ぎ木を行う。そうして贈られた桜は現地の検査を通り、ポトマック河畔に植樹された。

以後、返礼としてハナミズキが日本に届けられるなど、交流の歴史はつづく。西洋では果樹サクランボとして親しまれる桜だが、ワシントン郊外には、一軒につき一本の植樹を住民たちがルール化している町があるとか。桜の交流の原点に伊丹の桜があることが誇らしい。



ワシントンの桜は伊丹産
日米友好の桜 百周年
続々登場!
寄贈100周年特別企画

盛り沢山の100周年企画、お問い合わせは伊丹市都市デザイン課 ☎072-784-8068



【取材と文:内山真理子】伊丹アイフォニックホール所属 世界の音楽を紹介する「地球音楽プログラム」などを担当。ローカル〜グローバルな「伝統芸能」と日々奮闘中。「ストリート…子どもの頃、ローラースケートとか流行ってましたね…」

伊丹がふるさと寄附

ご寄附を通じて、ふるさと伊丹を応援してください

伊丹市では「夢と魅力のあるまち伊丹」の実現に向け、様々な施策に取り組んでいます。寄附金の活用は「芸術・文化」「スポーツ」など10テーマからご指定いただけます。

【お問合せ】伊丹市総合政策部政策室 TEL.072-784-8007 <http://www.city.itami.lg.jp/furusatoitami.html>



キース・ヘリングを
読み解くキーワード
【その3】
POP
アート

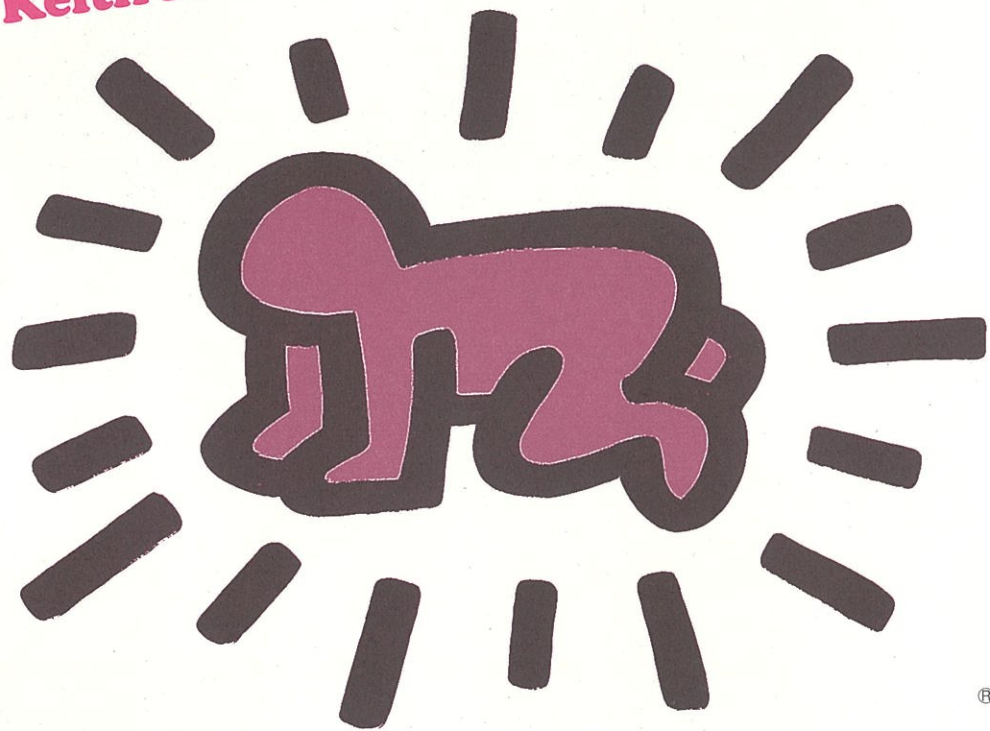


キース・ヘリングを
読み解くキーワード
【その2】
80's

特集

伊丹にキース・ヘリングが やってくる

Keith Haring in ITAMI

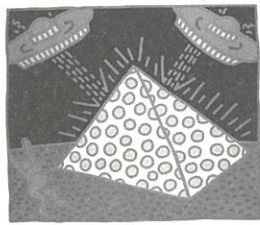


**こどもにも分かる
明るい作品**
缶入りスープのラベルを大胆にアレンジしたシルクスクリーン作品など、アンディ・ウォーホルに代表されるPOPOPアート。広告やカートゥーン(漫画)といった子どもでも知っているポピュラーな素材を用いた表現手法がアート界に新たな風をもたらした。子どもの頃からアニメやカートゥーンに親しんできたヘリングもまた、分かりやすく明るいタッチで、愛や平和といった時代を映す作品を多く残した。

**時代を駆けぬけた
天逝のアーティスト**
長引く不景気に停滞するニューヨークでは、犯罪が多発し治安が悪化する一方、クラブシーンは大いなる盛り上がりを見せていた。酒やドラッグが蔓延する退廃的な社会の中で、享樂的な文化が咲いたのは何とも皮肉な話だが、80年代は美術館やギャラリーといった従来とは異なる文脈から数多くのアートが生まれた時代でもあった。1981年に脚光を浴びたヘリングがエイズでこの世を去ったのは1990年。まさに80'sを駆け抜けたアーティストなのである。



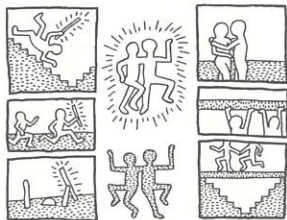
Andy Mouse, 1986年



Untitled (Fertility), 1983年

世界中のアートが集う ゴッサムシティ

世界の文化が集まる大都市ニューヨーク。ダウンタウンでは倉庫街にアーティストが集まり、アップタウンでは多くのギャラリーが軒を連ねる。アートの裾野の広さは世界一とも言われるゴッサムシティで生まれた作品が、伊丹に集う。



The Blueprint Drawings, 1990年



キース・ヘリングを
読み解くキーワード
【その4】
ニューヨーク

「LOVE POP! キース・ヘリング展 アートはみんなのもの」

美術館・工芸センター・伊丹郷町館 1/21(土)~2/26(日)

80年代ニューヨーク地下鉄からはじまり、美術界を含めて世界中でムーブメントを起こしたキース・ヘリング。中村キース・ヘリング美術館(山梨県)の所蔵品を中心に約150点を紹介し、ヘリングの全貌に迫る。会期中には講演会や壁画プロジェクトなどのイベントも多彩に行われる。

「LOVE POP! キース・ヘリング展 アートはみんなのもの」1/21(土)~2/26(日)。10:00~18:00(入館は17:30まで)。月休。一般800円、大生450円、中小生150円。072-772-7447(美術館)

次の頁からはキース・ヘリングを読み解くキーワードから、伊丹を見てみよう。

誰もがみれる作品を

キース・ヘリングを
読み解くキーワード
【その1】

ストリート
カルチャー

ダンサーやミュージシャンなどが街を舞台に様々な文化を発展させる中、壁に書いた落書きもグラフィティアートと呼ばれ、多くのペインターが活躍した。1981年、ニューヨークの地下鉄の広告看板に、突如次々と現れたあるグラフィティが人々の話題に。チョークで瞬間的に描いたにもかかわらず高い完成度。この「サブウェイドローイング」でキース・ヘリングは一躍有名になった。「人種や性別などを超えてあらゆる立場の人に見てもらいたい」と彼が選んだキャンバスこそがストリートだったのだ。



伊丹で見つけたキース・ヘリングのキョウウイ

【その1】
ストリート
カルチャー

「より多くの人に見られたい」
「場所がない」「開放感が好き」。
素直な衝動で
突き動かされている
街場の表現者を紹介します。



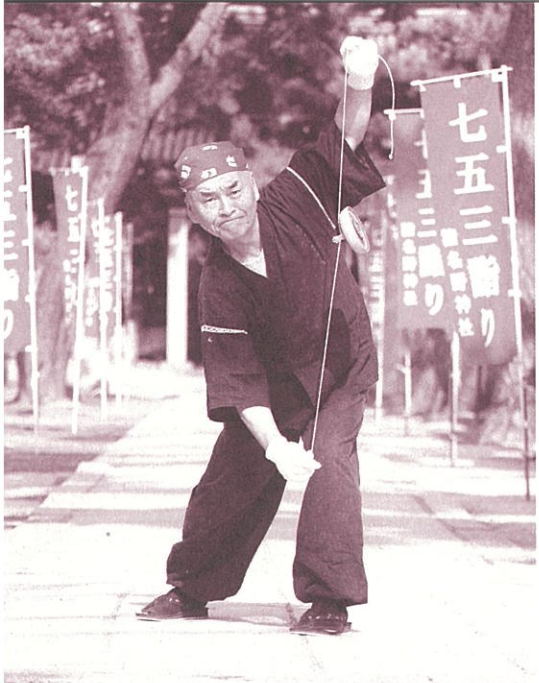
Best Buddies, 1990年

青空に学ぶ音色 五月工コさん

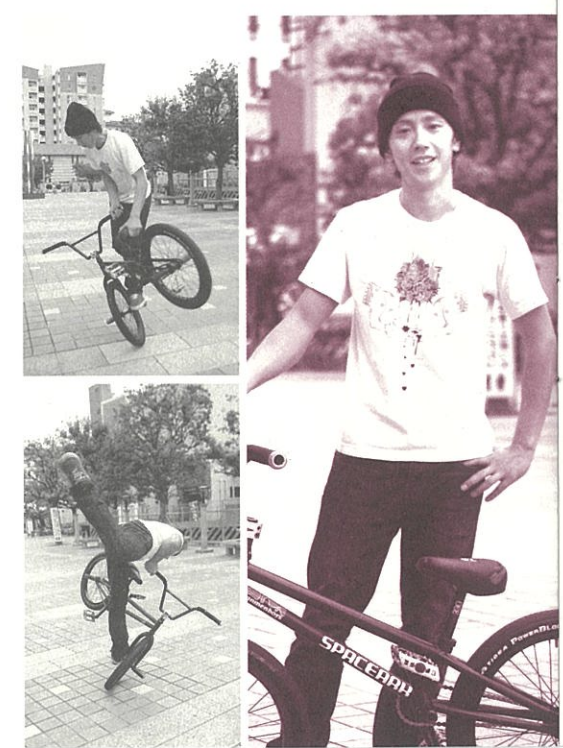
「伊丹まちなかバル」酒樽夜市「鳴く虫と郷町」。まちなかを賑わすイベントで彼女を見た、という人は多いのではないだろうか。日本でポタンアコーディオン奏者は数百人と言われている中、気軽に聴けることが多いのだから、伊丹市民はラッキーかもしれない。五月さんの年間ライブ数は100回以上。今や売れっ子として関西二円を奔走し、コンサートのみならず劇中での生演奏や詩の朗読との即興コラボレーションなど幅広く活躍する。もちろんストリートはやめるつもりはないという。「屋内ばかりだとなんだか窮屈で。人や風景、陽射しがいつも違うから、勉強になることも多いんです」と教えてくれた。瞬間の出会いでどれだけ人を惹きつけるか。雰囲気や表情を読み取る訓練になるのだそう。「あ、でも」とおもむろに口を開く。「最近私が幸せそうに演奏する姿や表情を見てると嬉しくなる、と言ってくれる人が増えてきました。あらためて自分の好きなものが何かなと、考え直す機会になります」。どうやらストリートは彼女にいつも何かを教えてくれる。

三軒寺のトリックプレイヤー 森下和人さん

「もちろん、プロを目指しています」。ハンドルやシートを様々な態勢で保持し、あたかも自転車とダンスをするように巧みに乗りこなす。BMXによる競技名は「フラットライド」。足をつけないことがルールで、トリック技の創造性や難易度を競う。まさしくアメリカ生まれのストリートスポーツだ。森下和人さんは普段、大阪や神戸でグループで活動するが、伊丹では一人で黙々と練習する。パフォーマンス性の高さとはウラハラに、その魅力が「ストリート感とスティックさ」と語る。二つの技を習得するには想像上の反復練習が必要だとか。かなりのトリックを習得したとはいえ、その道を究めるにはまだまだ時間が必要だ。擦り傷は日常茶飯事で常に骨折の危険と常にり合わせ。それでもストリートでやる魅力は？と尋ねると「言葉には中々できないです」とハカむ。



人の絆をつなぐコマ師 三木仁さん



「肥後チヨ」掛け「コマ」で呼ばれる曲芸コマを披露する三木さんは、お祭りやイベントのみならず幼稚園や学校に日々赴く。空中を飛び交うコマに拍手と歓声が湧き上がれば、おもむろに子供に近づき、手にコマをのせ、語りかける。「この子はもともといい子です。元気がいい子にもっとなる」。パツと明るくなる子どもの表情が、周囲を和やかにする。「披露することはとっかかりにすぎない。コマから生まれるコミュニケーションが大切という眼差しは、特にごともや親族に向けられている。自らも奥さんに三味線を弾いてもらい、夫婦で表舞台に立ち、その想いを体現する。「気がひける時はあるよ。でも全力で向き合わないと人には伝わらん。いや、たんに見せたがりかもしれないけど」。コマのようにクルクルと変わるコメントに、思わず「ちよちよも笑ってます」。

伊丹で身につけたキース・ヘリングのキーワード
【その3】
**POP
アート**

「明るく、ユニーク、親しみやすい」と言われて
「それってご当地キャラ?!」と思いこんだ編集部。
選んできた伊丹のポップアイコンたちを
伊丹市立美術館の岡本学芸員に批評してもらいました。



ご存知本誌の看板ボーイ
アイテムくん

「ポップですねー。線の勢い
が出ていて良い感じ。作家
の手仕事感が残っている
のが私は好きです」



伊丹市マスコットキャラクター
たみまる

「文字をそのままアイコンに取り
入れているのは中々思い
きっていますね。itamiの“i”を
活かしたデザインにささやか
なこだわりが伺えます」

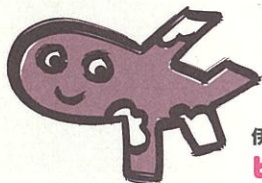
鳴く虫と郷町
すずむしくん

「昆虫学芸員が描いたものとは思えないク
オリティ。作家の人間性
が濃厚にあらわれています。というか本人に少
し似ているかも」



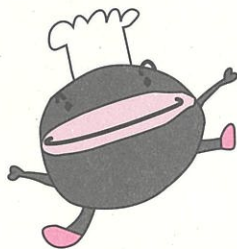
伊丹まちなかバル
バル蔵

「日本人はハンコがサイン化し
ているので、印鑑調のデザイン
はシンボルとしてなじみやす
い。これをジャパニーズポップ
アイコン」



伊丹市マスコットキャラクター
ヒコまる

「日本人はなれしたセンスですよ、これは。日本のキャラ
クターは、大抵目をはなしがちなデザインなのに、ヒコまる
は顔が濃い。さすが国際的な視点を入れていますね」



ちょこリンピック
チョコボールくん

「こどもが描いたっぽくて
良いですね。使いやすい
デザインだと思います」

岡本学芸員による独断と偏見の総評

ポップアイコンは、すぐマネができて、シンプルなものポイントです。その点で「ヒコまる」は優秀ではないでしょうか。あと、意味がなさそうですが、キースのアイコンである「ベイビー」に「純粋」というメッセージが込められているように「好奇心」の象徴である「アイテムくん」は意味性に加え、どんな印刷色でも対応できる流通性の高さにクオリティを感じます。

しかしながら、私のベスト・オブ・伊丹ポップアイコンは「チョコボールくん」ですね。え？意外ですか？あの「なんなら私も描ける」感は、シビれますよ。いや、もう基本それしかないでしょう。



本特集にかかるキース・ヘリング作品画像は全て©Keith Haring Foundation、中村キースヘリング美術館蔵。



伊丹で身につけたキース・ヘリングのキーワード
【その2】
80's

若者が享楽的に青春を謳歌したNY。当時の伊丹も負けず劣らず。
若者たちが過ごした伊丹80'sの一コマをお伺いしました。



写真の持ち主は、森さんご夫婦。カリフォルニアから帰ってきて3年後の1985年夏、当時28歳の森青年は、自ら生コンを混ぜ、漆喰を塗りたくって、バー「WINNER(ウィナー)」をオープンさせた。
地中海の白壁か洞窟のような内

装に逸品のワインが並ぶ店内は、日本にで始めたばかりの「カフェバー」のような雰囲気、JBLスピーカーから流れる大音量のジャズとともに、若者を惹きつけた。
* 当時の伊丹は、自前のホテルができて、劇場都市宣言が出されるなどにぎやかな時代。音楽好きでクールなお客さんもお祭り好きのゴン太なお客さんも、阪神優勝や仮装パーティー、果ては*バックギャモンで、ライトボディな夜を楽しんだ。
一方、「ワインがとにかく好きなんや」と語る森さんの期待とは裏腹に、世間ではトムクルーズの映画がヒットし、*MA-1ジャケットを着て、カクテルを飲むのが流行り。ワインをじっくり楽しんでから飲むようになって、なるまでに8年かかっただけであつた。
伊丹80'sを振り返ってくれた。
80年代はワインもええのが多いやで



カフェバー：1980年代に流行した、カフェ仕立ての内装で、コーヒーも飲めるバー。 当時の伊丹は福知山線が複線電化、姉妹都市提携、第一ホテルに美術館や演劇ホールなどもでき、都市化が進んだ。 *バックギャモン：2人制のすごろく的なボードゲーム。 MA-1ジャケット：映画「トップ・ガン」で主演のトム・クルーズが着用していた。

「WINNER」西台2-3-16 / Tel.072-782-6743 / 月休。

本は世界の旅先案内人

コンサートや展覧会の鑑賞前後「もうちょっと知りたいなあ」ということ経験ございません?
図書館南分館の皆さんに、オススメ本とイベントをご紹介します。

昭和の元気を教えてほしい

“高齢者”と言っても最近の方って、ホント若くて元気。加山雄三さんも、芸能生活51周年目の全国ツアーで伊丹に来るんですって！この世代の方々の青春時代は一体どんなのだろうと調べてみたら、やっぱりイキオイがありました。読めば思わずつぶやいちゃいます。「しあわせだなあ」

「テレビの黄金時代」
表紙のコント55号さんが良い味だし、ます。

「青春デケデケデケ」
エレキギター×青春と言えばコレは外せないでしょ。

「くらべてみよー昭和のくらし」
世代ごとの比較があるので、お孫さんと読めます。

「テレビの黄金時代」
表紙のコント55号さんが良い味だし、ます。



「いたみホール」 3/18(日)
若大将 FOREVER!
2010年にデビュー50周年を迎えます。ます精力的な活動を展開している加山雄三。永遠の「若大将」ホールコンサート開催決定！常に溢れるバイタリティ。魅力的なステージを是非！

加山雄三51st ホールコンサートツアー若大将 湘南FOREVER!
3/18(日) 17:30。
一般6,500円(お一人様4枚まで)。
072-778-8788

意外と知らないオトナリさん

K-POPやグルメ、エステ…といった新しい韓国の魅力もステキだけど伝統や生活に根差した文化で惹きつけるものが沢山あるんです。色彩や装飾にこだわった建具や衣装、身近な使い方にアレンジされた暮らしの提案。先入観抜きで楽しんでみることから始めることがあるかもよ。

「韓国の家具装飾」
細部にわたる装飾や文様は韓国の伝統文化の一つなんです。

「彩るホジャギ」
優しい色や素材感でデザインした暮らしはふりはかなりオシャレ。

「岡本太郎が愛した韓国」
ステレオタイプな韓国像は間違いなく覆されます。



「工芸センター」 3/3(土)~3/25(日)
師匠と弟子シリーズ 韓国編
工芸センター恒例の海外ジュエリー展シリーズ。今回は韓国です。韓国の大学で教鞭を取っている9名と、彼らに選ばれた教え子達22名による作品を紹介します。様々な大学からの作品が一堂に会する貴重な展覧会です。お見逃しなく！

「韓国コンテンポラリージュエリー」
3/3(土)~3/25(日)。
10:00~18:00
(入館は17:30まで)。無料。
072-772-5557

バーチャル東欧旅行

アイフォニックホールにスロヴァキアの民族舞踊団がやってきます。旧社会主義の東欧諸国。あの素朴な雑貨やデザインにそそられる女子な私ですが、歴史書とか難しいのはちょっと苦手なんですよね。お茶をしながら読める気軽さで、暮らしが想像できる本を各種揃えてみました。あー旅に出たい。

「12月くんの友だちめぐり」
スロヴァキアの画家による絵本淡い絵や色調が特徴的です。

「東欧ジョーク集」
二つ三つやりとりのみで、社会情勢がわかる笑える良書。

「チャルカの東欧雑貨いつけ旅日記」
単語がすべて乙女心をくすぐります。



「伊丹アイフォニックホール」 2/25(土)
東欧の妖精が可憐に舞い踊る！
古い農村文化や手つかずの自然が残る国、スロヴァキアから、若く美しく妖精たちが来日！可憐な少女の輪舞カリチカ、力強い青年のヴェルブク、軽快なチャルダッシュ…スロヴァキアが世界に誇るフォークロール・アートをお見逃しなく。

「aphonic地球音楽プログラム」[草原のチャルダッシュ〜スロヴァキアの歌と踊り〜]
2/25(土) 14:00。出演、スロヴァキア国立ルチニツァ民俗舞踊団。一般3,500円、学生2,500円(当日各500円増)。072-780-2110

夢膨らむ手織の館

阪急新伊丹駅すぐ近くにあり、染織作家、伊東良子さんの自宅兼アトリエを訪ねました。今年の夏に完成したばかりの新築ほやほや。玄関を入ると正面の白い壁に飾られた自作のタペストリーが目を迎えてくれます。2階が高い天井のゆったりとした作業スペース。大きな机を中心に紡毛機や手織の道具が並び、ペランダに繋がる染色スペースもあります。3階はロフトになっていて、和機(わばた)など大きな織機がずらり。

小さい頃から絵を描くことが好きだった伊東さん。大学で染織を専攻してからは手織・筋・美術館などで教えつつ、絨織(かすりおり)や組織織(そしきおり)といった多様な技術に磨きをかけてきました。「趣味と実益を兼ねる生活ができていて幸せ者」と言うように、講座で知り合った友人を誘って染織の勉強がてら旅行に行くことも。人との繋がりが大切にする伊東さんの優しさが伝わってきます。

クラフト作家の仕事場を訪ねて

染織作家の伊東良子さん



【工芸センターからのお知らせ】手織のほか、陶芸や版画、彫金などの様々な講座を開催しています。また、年間を通してプロのジュエリー作家を育成する「伊丹ジュエリーカレッジ」も。伊東さんの手織講座は、来年春に開講予定。詳細・お問合せ：工芸センター 072-772-5557まで。



制作はタペストリーや着物が中心。夕日や雨の中の紫陽花など、その時感じたものからイメージを膨らませ、図案作り。糸染め、整経(せいけい)、糸通し、手織と作業が続きます。最初に思い描いたイメージ通りに表現できた時は、何事にも代えがたい達成感だそう。

工房は手紡ぎをしている妹の徹子さんと共同で使う。「手織は機(はた)で織る前の作業が多く、スペースや道具もたくさん必要。仲間と共にお喋りしながら、一人ではやり難い糸の準備や染色をし、お互いの情報交換の場にしたい」と夢を語ってくれました。

伊東良子 (いとらよしこ)
伊丹育ち。京都市立芸術大学芸術科染織専攻卒業。以降、様々な場所で手織を教えるアイテムNo.6でご紹介した伊東徹子さんのお姉さんです。

【取材と文：湯野宏美】伊丹市立工芸センター所属。伊丹国際クラフト展などを通して全国各地の工芸作家とつながる。手織や陶芸などの講座を主に担当。「ストリートでギターを弾くわたなべゆうざんが好き。CDも買って、くつろぎたい時に聞いている。」

2・11(土・祝) 魂を揺さぶる美しい歌声・クミコ

2010年、「紅白歌合戦」で披露した少女の祈りを歌った「INORI〜祈り〜」、「最後の恋〜哀しみのソレアード〜」、「百万本のバラ」、「愛の讃歌」etc...数々の名曲を、心に響くクミコの美しい歌声でお楽しみください。



「クミコ コンサート2012 スタンダード」
2/11(土・祝) 16:30、5,000円(全席指定)。
072-778-8788

3・3(土)~
3・25(日) 輝く原石を発掘

プロのジュエリー作家を養成する伊丹ジュエリーカレッジの修了生作品展。キャリアも年齢も多様な14名の受講生が、1年間の学びの成果を発表します。これから世にはばたく作家の卵たちの、独創的なジュエリーの数々をお楽しみください。



「伊丹ジュエリーカレッジ第12期生修了作品展」
3/3(土)~3/25(日) 10:00~18:00(入館は17:30まで)。
入場無料。072-772-5557

3・10(土) 祭り彩る 博多の伝統、芸能のこころ

熱気あふれる祭りのまち博多から、3つの伝統芸能をご紹介します。どんたくパレード幕開けを飾る、800余年の歴史、「博多松離子稚児舞」や、軟らかい音色が美しい筑前琵琶、「黒田節」「炭坑節」などの民謡と、盛り沢山の内容でお楽しみください。



aiphonic地球音楽プログラム「祭り彩る 博多の伝統、芸能のこころ」
3/10(土) 14:00。出演:博多松離子稚児舞(東流)、中村旭園(筑前琵琶)、博多那能津会。一般3,500円、学生2,500円(当日各500円増)。072-780-2110

3・25(日) 不朽の人間喜劇「フィガロの結婚」

セヴィリア近くのアルマヴィーヴァ伯爵邸で起こる物語。結婚式を今日に控え幸せ一杯のフィガロ。一方伯爵に不信感を抱くスザンナ。二人の仲を裂こうと企む伯爵を筆頭に、愛と嫉妬が絡み合う人間喜劇。8年ぶりの再演となる「フィガロの結婚」にご期待を。



第26回伊丹市民オペラ定期公演「フィガロの結婚」
3/25(日) 14:00。一般A席4,000円、B席3,000円(当日各500円増)。
072-780-2110(伊丹アイフォニックホール)

※イベントにより、未就学児童の入場の制限等がある場合がございます。詳細は各ホールへお問合せ下さい。※いたみホール、アイホール、ラスタホールは火曜日休館。伊丹アイフォニックホールは水曜日休館。美術館、工芸センター、伊丹郷町館、柿倉文庫は月曜日休館。(祝日にあたる時は翌平日)

アイテム

2012年1月4日発行(季刊冬号・通巻70号)
発行:公益財団法人 伊丹市文化振興財団
編集:アイテム編集委員会
表紙イラスト:ニシワキタダシ
デザイン:三澤敏博(絡線堂)
〒664-0895 伊丹市宮ノ前1-1-3
伊丹市立文化会館「いたみホール」内
Tel.072-778-8788 Fax.072-778-8585
http://hccweb1.bai.ne.jp/itamihall/zaidan
Email→itami-kikaku@ccb.bai.ne.jp

<配布場所>市内・近隣の文化施設でお取りいただける他、こんなところで配布協力いただいています。アリオ1&2、伊丹酒蔵通り、ひがし商店街、タミータウン、宮ノ前商店街、ビバ伊丹、三軒寺前広場周辺のお店、伊丹シティホテル...ほか市内各所



ラスタホール
併設有料駐車場
約30台

市立宮ノ前地下有料駐車場ゾーンのご案内
伊丹アイフォニックホール B・Cゾーン
いたみホール A・Fゾーン
みやのまえ文化の郷 Cゾーン

チケットプレゼント

「LOVE POP! キース・ヘリング展 アートはみんなのもの」1/21(土)~2/26(日) <美術館>
5組10名。1月31日必着。

プレゼントをご希望の方は、はがきまたはEメールで郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、アイテムの感想をご記入の上、上記文化振興財団住所宛「アイテムチケットプレゼント係」まで。当選の発表はチケットの発送をもってかえさせていただきます。

現代演劇レトロスペクティブ開催!!

「現代演劇レトロスペクティブ」とは、現代演劇の歴史を俯瞰し再検証する回顧展。3年目となる今回も、関西気鋭の3劇団が時代を画した作品群に挑みます。

下鴨車窓
『小町風伝』
1/20(金)~1/22(日)



※「人魚」より 撮影:清水俊洋

秘められた言葉への挑戦

第22回岸田戯曲賞を受賞した本作は1977年の初演時、主人公である老婆が一切発話しないことから「沈黙劇」と評されました。下鴨車窓では今回、秘められた老婆の「声」を来場者に配布、「展覧形式」の観劇スタイルという新たな試みで挑戦します。

下鴨車窓「小町風伝」

- 1/20(金) 18:30~21:30。
- 1/21(土) 14:00~17:00 / 18:30~21:30。
- 1/22(日) 14:00~17:00。

※観劇の目安は一時間余り、開場時間内は自由に入退場できます。
一般2,000円、学生・ユース(25才以下)1,500円、ペアチケット3,600円(すべて前売・当日共)。

ニットキャップシアター
『さらば箱舟』
2/10(金)~2/12(日)



※「ピラカタ・ノート」より 撮影:竹崎博人

寺山修司遺作、本邦初の舞台化

寺山修司の遺作となった映画「さらば箱舟」の本邦初の舞台化に挑むのは、京都を拠点に活動するニットキャップシアター。異色の取り合わせがどのような舞台となって立ち現れるのか、どうぞ注目ください!

ニットキャップシアター「さらば箱舟」

- 2/10(金) 18:30。
- 2/11(土) 13:00 / 18:30。
- 2/12(日) 13:00。

一般3,000円(当日300円増)、学生2,500円(前売・当日共)。

A級MissingLink
『悲惨な戦争』
3/2(金)~3/4(日)



※「限定解除、今は何も語れない」より 撮影:清水俊洋

70年代不条理劇の現代性を問う

結成11年目に突入したA級MissingLinkが、竹内統一郎の初期作品に挑戦。平凡な家族が、見えない敵と繰り広げるお茶の間戦争に巻き込まれる様子を描きます。家族の食卓が戦場と化す不条理劇は、21世紀の今、私たちに何を提示してくれるのでしょうか。

A級MissingLink「悲惨な戦争」

- 3/2(金) 19:30。
- 3/3(土) 14:00 / 18:00。
- 3/4(日) 14:00。

一般2,300円(当日500円増)、学生1,500円(当日500円増)。

http://www.aihall.com/retro/ ◎お問合せ:072-782-2000

1・28(土) 兄弟ピアノデュオに魅了される!

兄弟によるピアノデュオ、レ・フレール(フランス語で「兄弟」を意味する)。1台のピアノを二人で自在にダイナミックに操る独自のスタイルで人々を魅了し続ける。熱く、激しく、美しいさらに進化・深化したレ・フレールサウンドが、今ここに!



「KIRIN presents レ・フレール 3rdアルバム発売記念ライブ」
「PIANO SPATIAL in ITAMI」
1/28(土) 17:00、5,000円(全席指定)。072-778-8788

1・28(土) バグマン主演の古典傑作サスペンス

19世紀ロンドンを舞台に、かつて叔母が殺害された家で新婚生活をおくるポーラに徐々に忍び寄る不安とそれを裏付ける証拠…。心理的に追いつめられる主人公を演じるバグマンは、その迫真の演技でアカデミー賞主演女優賞を受賞しました。



「ラスタ映画倶楽部 ガス燈」
1/28(土) 10:00・14:00・18:00。一般800円、高校生以下・60歳以上600円(当日200円増)。072-781-8877